

市民力で都市の川を里川にカエル —子どもたちのインフラ「自分ごと」化のプロセス—

中村 晋一郎（名古屋大学 准教授）

東京・善福寺川



都市の里川



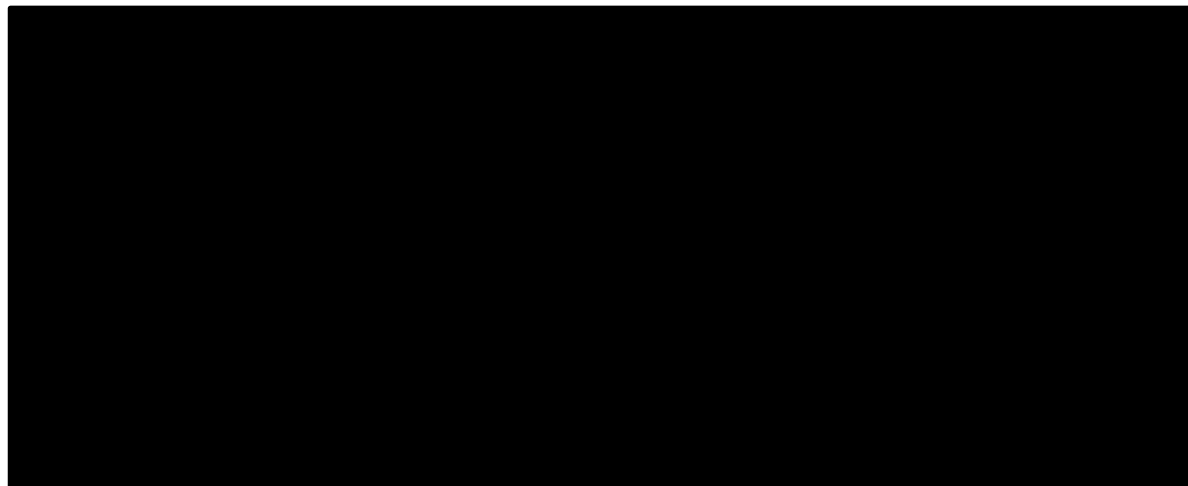
Challenge!



「市民力によって善福寺川を里川に変えよう！」

2011

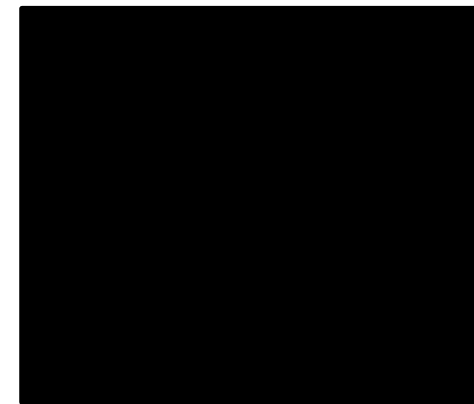
善福寺川を里川にカエル会（通称：善福蛙）立ち上げ



流域内の市民、流域外の川好き、専門家が一緒に活動



善福蛙カフェでの子どもたちの発表



学生たち（川ガール）も活躍
（提供：吉村伸一氏）¹

善福寺川で始まった子どもたちの活動

2010

井荻小学校5年生の社会科授業

「身近な川・善福寺川のことを知りたい」



「できることをやろう」善福寺川での清掃活動

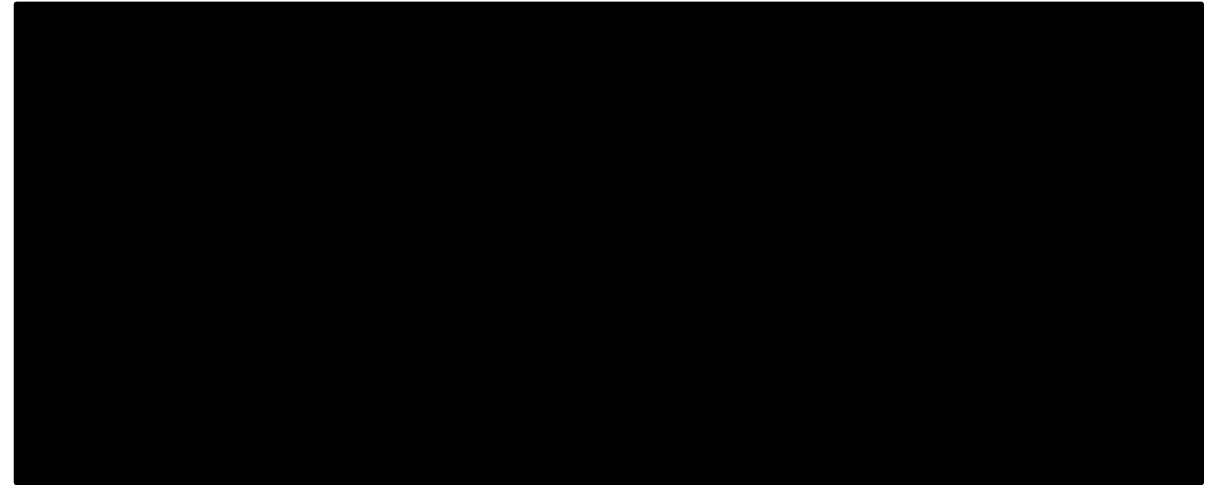


(提供：井荻小学校)

「市民力によって善福寺川を里川に変えよう！」

2011

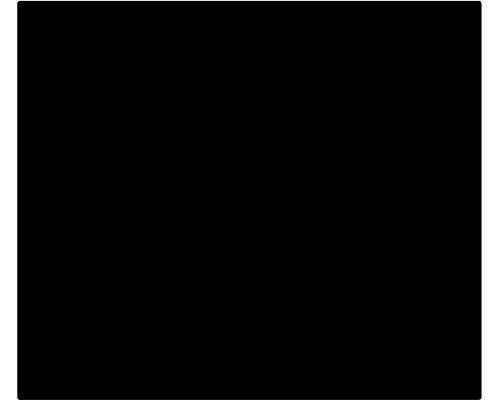
善福寺川を里川にカエル会（通称：善福蛙）立ち上げ



流域内の市民、流域外の川好き、専門家が一緒に活動



善福蛙カフェでの子どもたちの発表

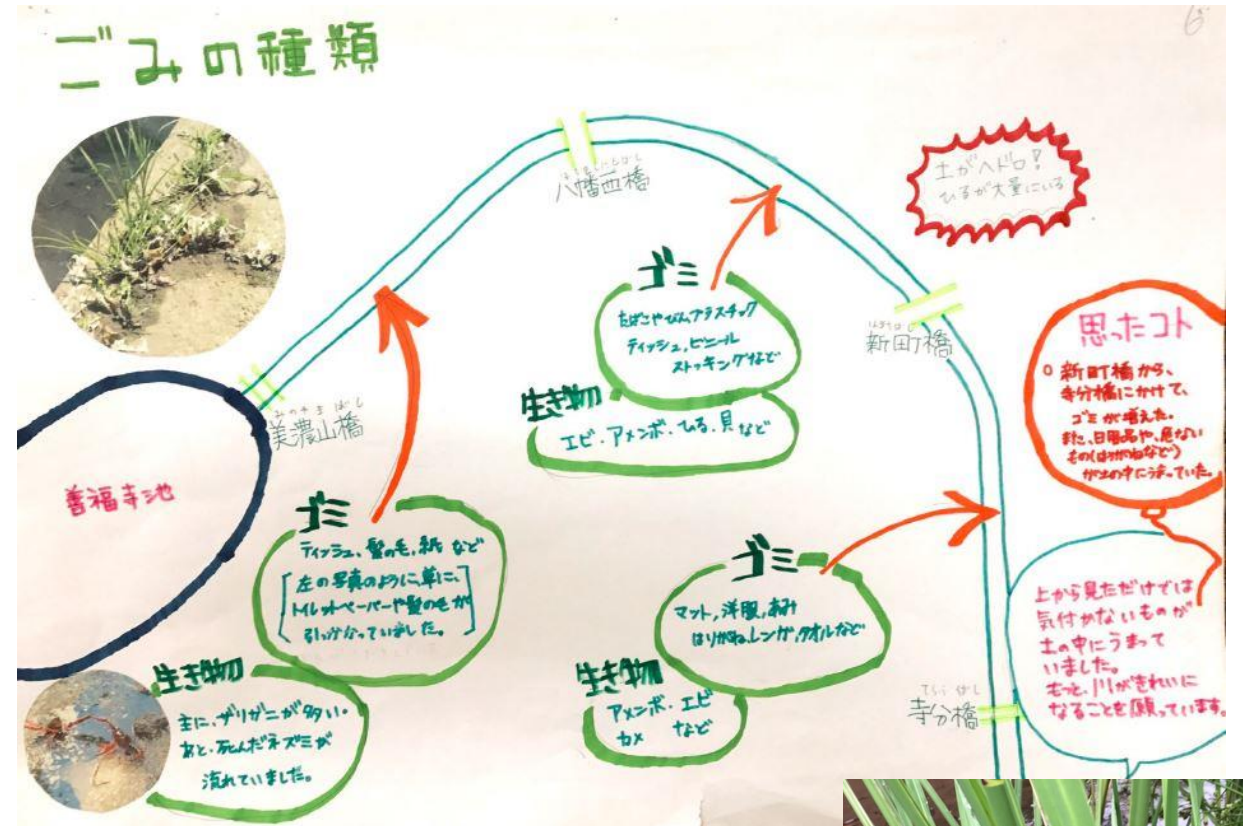


学生たち（川ガール）も活躍
(提供：吉村伸一氏)

ゴミ拾いを通じた「気づき」の形成



河道内でのゴミ拾い・調査の様子 (提供: 井荻小学校)



子供たちによるゴミの分析結果 (提供: 井荻小学校)

「なぜトイレットペーパーが川の中に？」

➔ 合流式下水道越流水 (CSO) という課題への「気づき」

➔ 川を通じた自主的な学びへ



川の教育のサポート

井荻小学校の河川教育のカリキュラム（2015）

3年生「生き物バンザイ！」

6月 川に入って生物観察

4年生「めざせ善福寺川博士！故郷の川を調べる」

6月 事前授業

6月 川に入って生物・水質調査

6月 出張授業「川の構造と歴史・課題を探す」

9月 課題別調査

12月 川の学習発表

5年生「想いを実現させるために川の役割と仕組みを広く深く調べる」

7月 水質・指標生物調査

7月 出張授業「世界の川とホタル水路」

8月 個人で川調べ

9-10月 雨量調査

9月 出張授業「善福寺川と水田」

10月 野川で環境調査

3月 善福寺川フォーラムで成果を発表

6年生「さあ、行動開始！清掃活動・社会奉仕」

6月 夢水路のアンケート

7月 桃四小学校でアンケート

9月 ゴミ拾いと調査

9月 地域での夢水路のアンケート

10月 出張授業「井荻小と善福寺川の雨について考えよう」

10月 野川で環境調査

11月 アンケート分析

1月 水鳥シンポジウムで成果発表



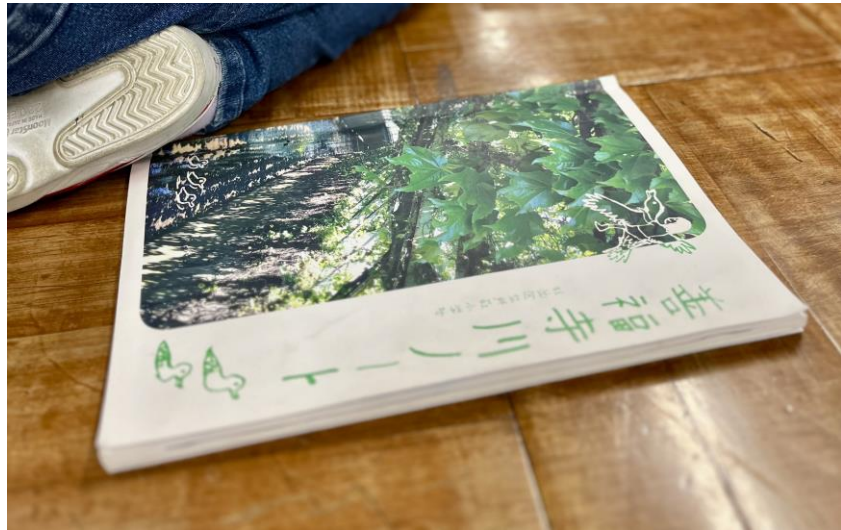
野川調査



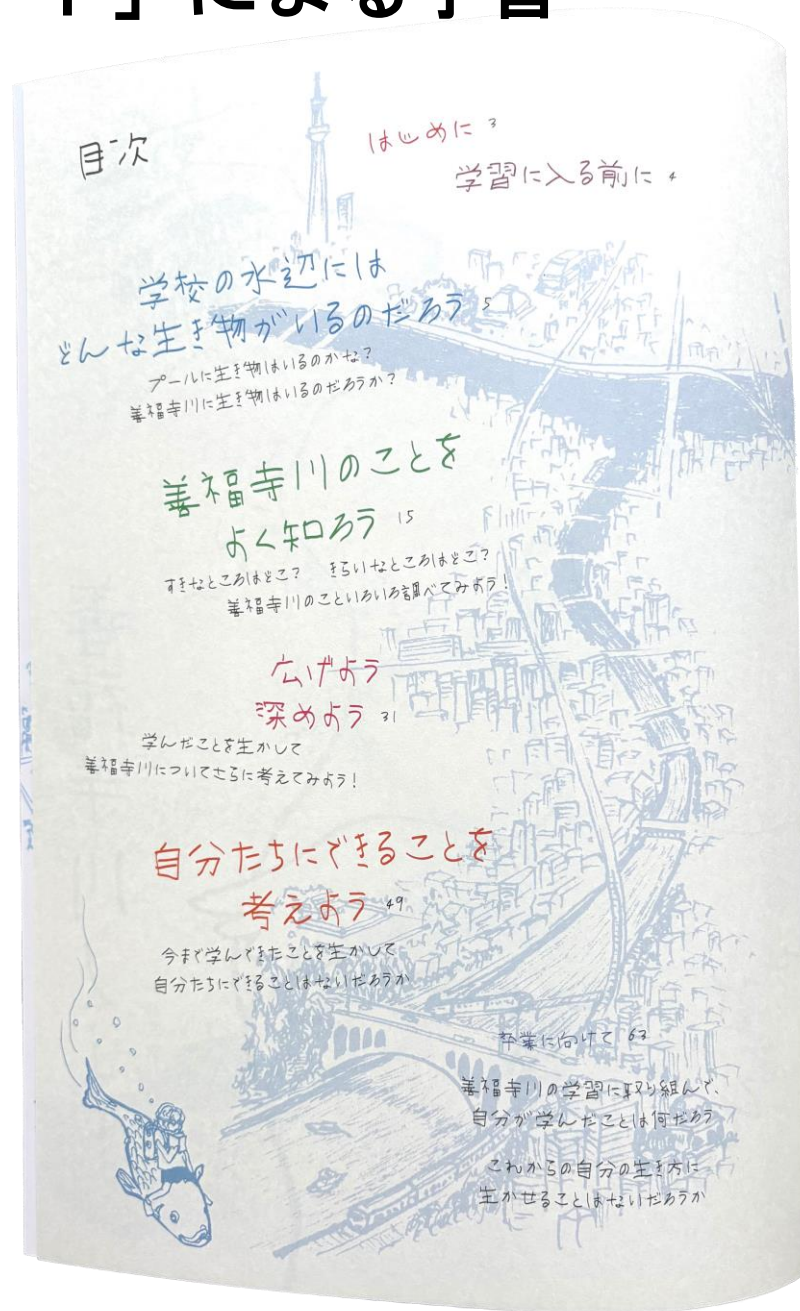
出張授業の様子

（提供：井荻小学校）

2021年～ 「善福寺川ノート」 による学習

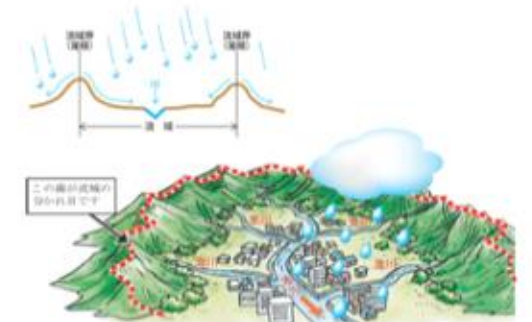


(提供：井荻小学校学校支援本部いおぎ丸)



流域ってなに？ - 雨水のゆくえをさぐる -

地面に落ちた雨は、高い方から低い方へと流れていき、最後は川に集まります。このように、雨が川へとあつまる範囲のことを「流域」といいます。自然な流域では、山や丘の一番高いところを結んでいくと流域の境界(流域界)になりますが、善福寺川のように都市を流れる川だと、その境界はととても複雑です。



流域の説明(鶴見川流域ネットワークより)

おうちの屋根や道路などに落ちた雨は、雨どいや側溝に流れ込み、そのあと道路の下などに埋まっている下水道管へと流れていきます。そして、下水道管に流れこんだ雨水のおおくは、下水(トイレの水やお風呂を流した水)といっしょに水再生センターへと運ばれていき、そこできれいになってから海や川へと戻っていきます。つまり、都市には、川とはべつに、下水道という水の通り道があるのです。

都市の流域を理解するためには、私たちが支えられているインフラ(下水道や上水道など)を理解することがとても大切です。まずは、自分たちがつかっている下水道がどこを流れているのか？水再生センターがどこにあるのか？地図を使って調べて、雨水の行方をさぐってみましょう。

しんちゃん先生
(善福寺川を里川にカエル会・名古屋大学)

「川は、下水道を通じて、まちと私たちの生活と繋がっている」

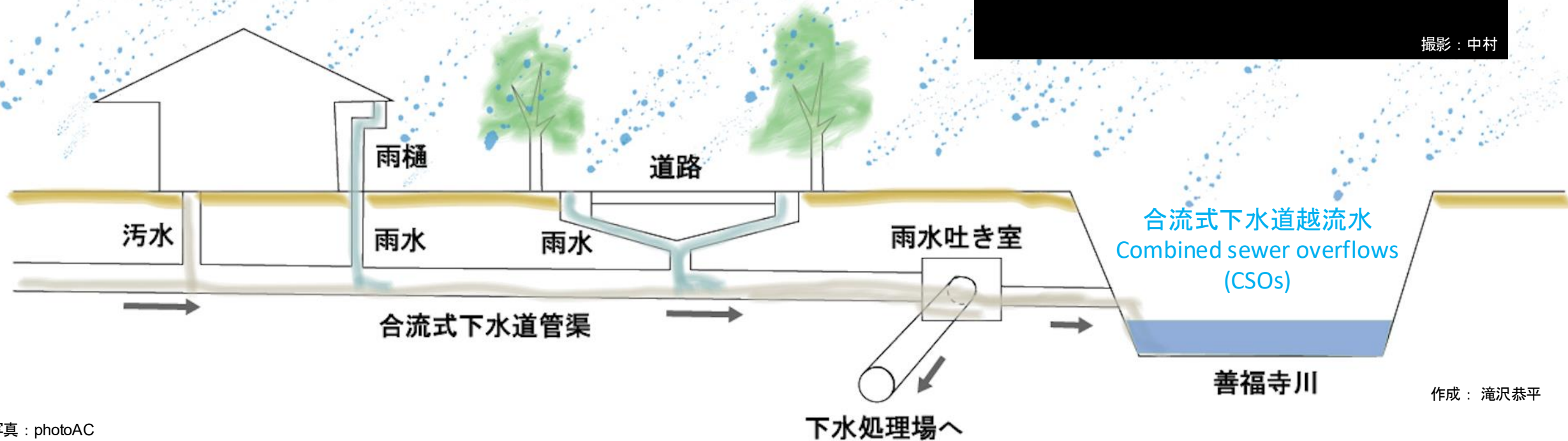
生活で使った水



まちに降った雨水



撮影：中村



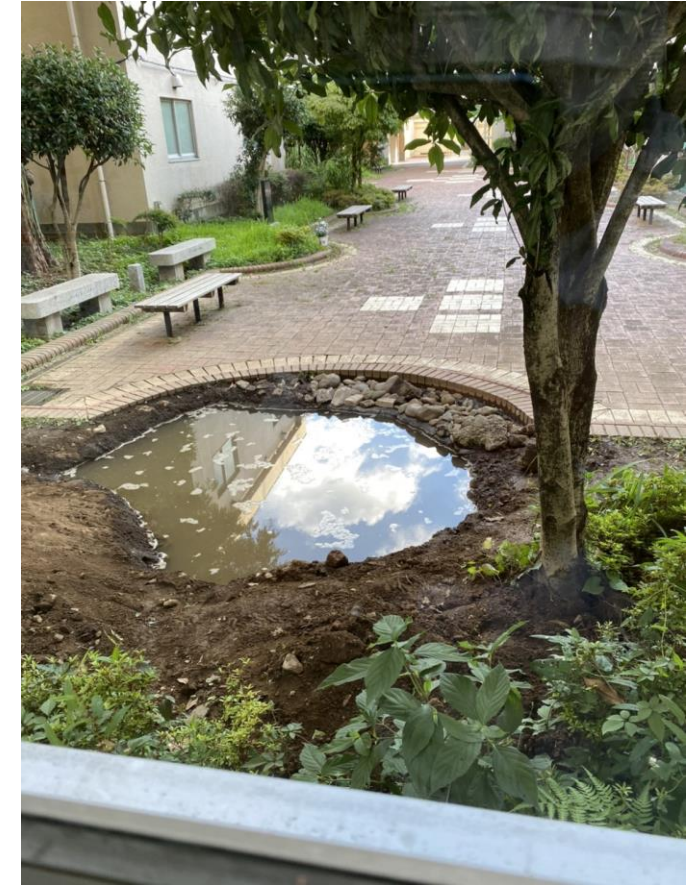
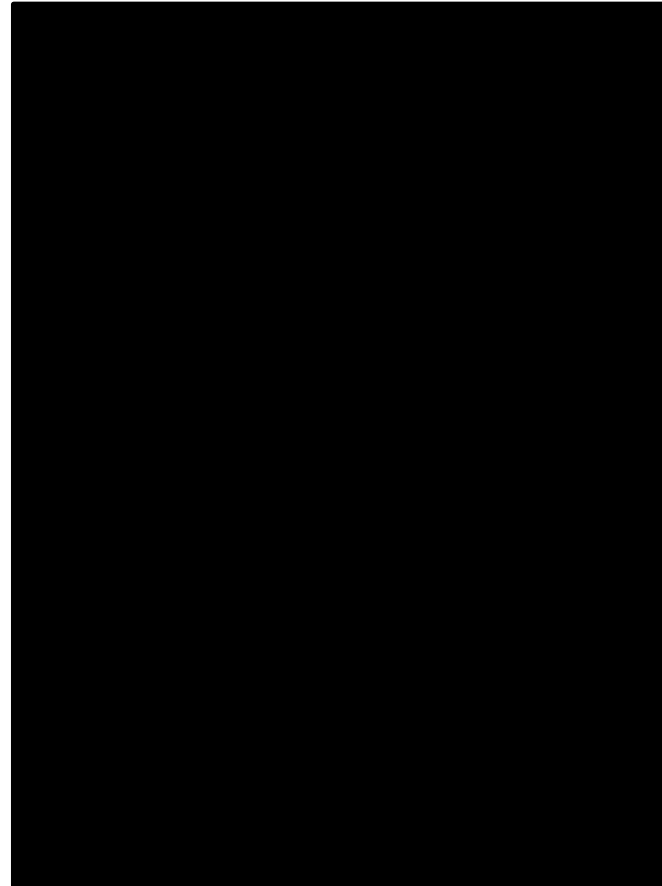
川の中から「流域」での取り組みへの拡張

小学校の「雨水プラン」の提案



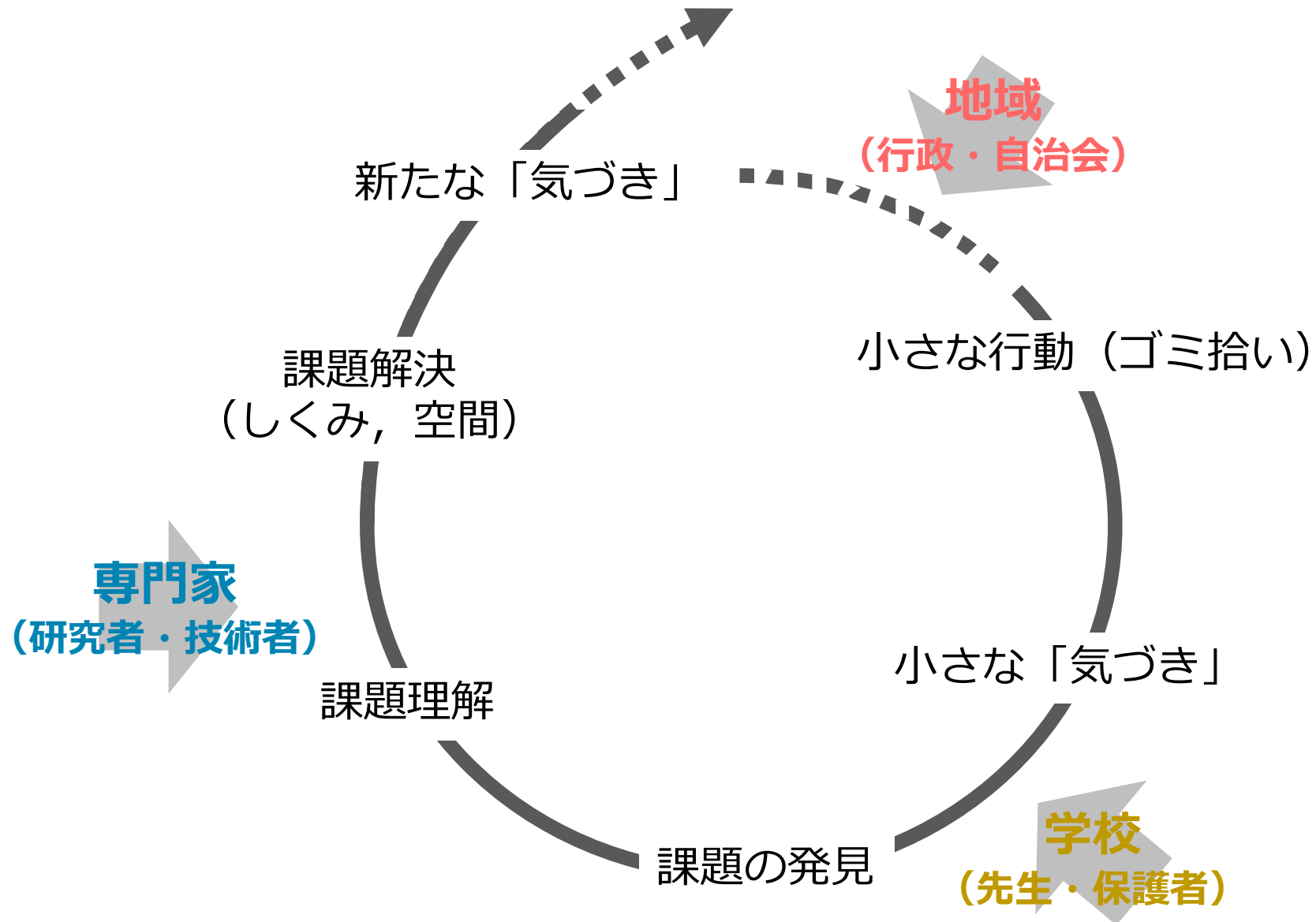
(提供：井萩小学校学校支援本部いおぎ丸)

中学校でのためにわづくり
雨水を貯留・浸透させる雨庭づくりを行う



(提供：渡辺氏)

善福寺川での「自分ごと」化のプロセス



参考文献

- 中村晋一郎 (2018): 都市における「川離れ」解決に向けた「気づき」の形成について—東京・善福寺川における河川教育の実践—. 実践政策学, 第4巻, 第1号, pp.11-20.

善福寺川からみたインフラ「自分ごと」化に必要なこと

インフラが「あって当たり前」になり、専門化進んだ現代において、

インフラを理解するため、「自分ごと」化するためには、**専門家の協力が不可欠**

→技術者・研究者が地域や市民の取り組みに積極的に関与していくことが重要

→学校教育へのインフラ教育の積極的な導入

善福寺川での取り組みの先に思い描いていること（個人的想い）

地域の水、川、インフラに関心をもってくれる人が増える

個人、地域での小さな取り組みが増えて、それが大きな効果（河川・下水道への負荷の低減）となって現れる

インフラに関する政策への関心が高まる（選択行動が変わる）